

【資料紹介】

鎌倉出土の提子^{ひさげ} 2 例

押木弘己（文化財課 遺跡発掘調査研究員）

はじめに

筆者は本誌第 5 号において、鎌倉における提子の出土例をいくつか取り上げ、銚子も含めて中世の飲酒文化を考える上での材料を提示した〔押木 2023、以下「前稿」とする〕。本稿では、前稿でも取り上げた提子 2 例について実見による観察所見を述べ、既報告の内容を補足したい。

事例 1. 若宮大路周辺遺跡群出土の陶器製提子（図 1）

前稿の図 4－K として提示した資料で、概報では舶載陶器とされている〔松尾 1983〕。これまでに概報掲載の写真でしか姿を知り得なかったのが、今回、実測図化と再撮影をおこなった。

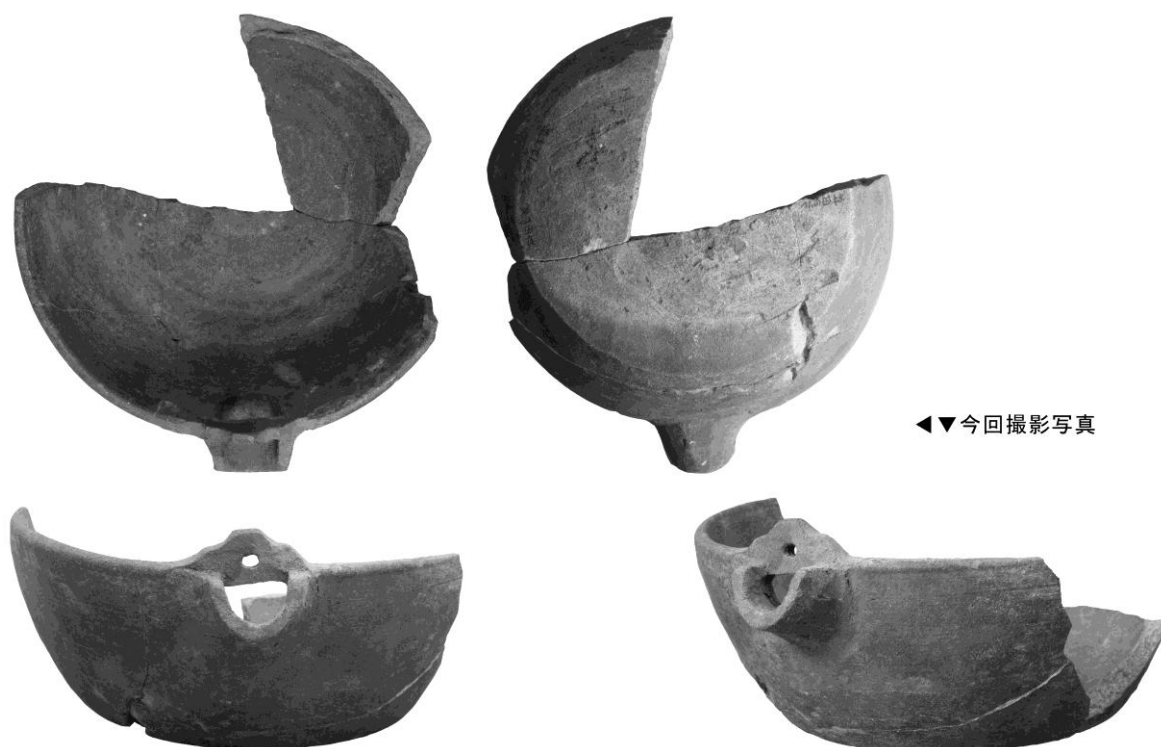
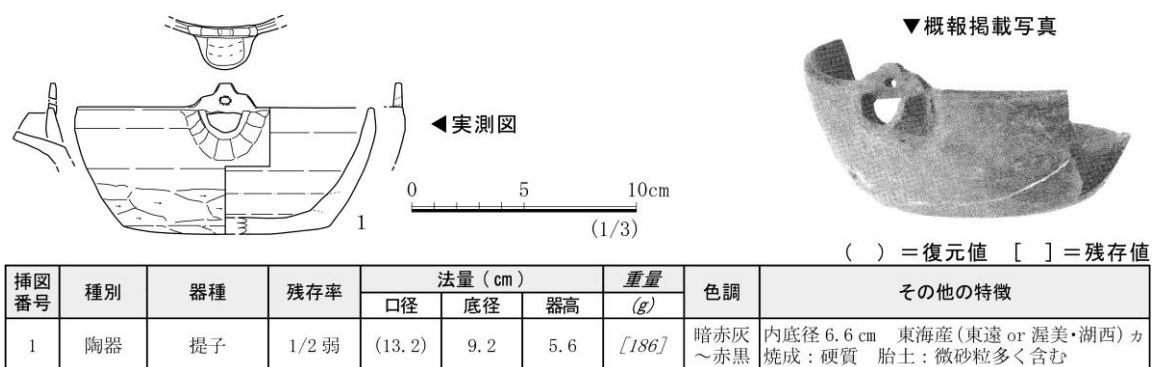
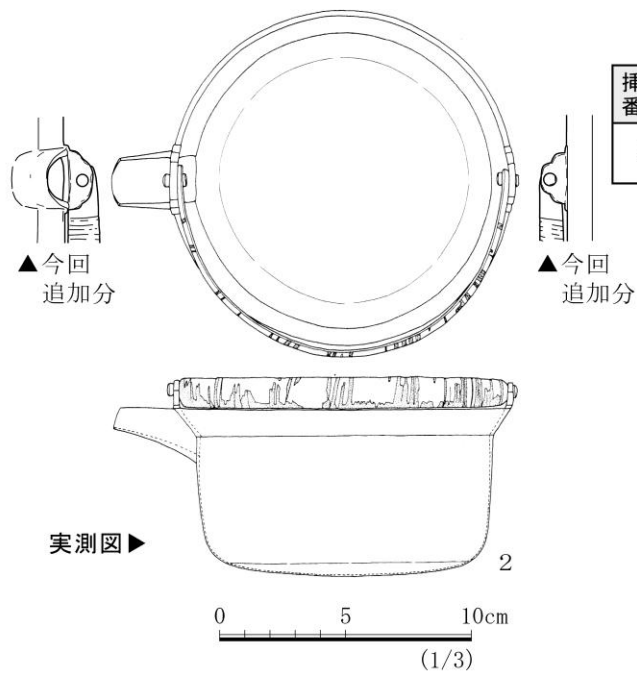


図 1 若宮大路周辺遺跡群出土の陶器製提子

法量などの観察所見は図1に掲げたとおりで、舶載陶器ではなく、東海地方の瓷器系陶器窯で生産された製品と考える。その根拠としたのは、①胎土、②成・整形、③器形などの諸特徴であり、②・③については渥美・湖西型の「片口碗」によく似た印象を受ける。色調は東遠型山茶碗に近似するも、①や焼成は東遠型ほど緻密で硬質ではなく、渥美・湖西型に近い。今のところ決め手を欠くが、舶載陶器でないことは確言して良からう。吊り手を付けるための釣座は本体と一体で作られ、華美な装飾は見られない。注口部と同様、ヘラないし刀子状の工具で面取りが施されている。体部下位から底部にかけての外面は、一定方向のヘラケズリで仕上げている。



挿図 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)		
				口径	底径	器高
2	銅製品	提子	ほぼ完形	13.5	9.2	6.6



図2 笹目遺跡出土の銅製提子

事例 2. 笹目遺跡出土の銅製提子（図 2）

当地点は正式報告書が刊行済みで [大河内 1991]、前稿では図 2-F として掲げた。入子状に重ねられた地鎮埋納具の容器として、土坑底面から出土した。共伴する陶磁器の下限年代は 14 世紀末～15 世紀前半を示すが、これが提子本体の製作年代となるかは、鎌倉では他に類例がないため定かでない。報告書では、口縁部を除いた容積は約 500 ml とされている。

図 3 の中央には、報告書掲載図に釣座の正面図を新たに実測して追加した。釣座は本体と一体铸造されたものと報告されている。それでは铸造の難易度が高まるため、別作りの金具を溶着させている可能性も考慮して実見したが、そうした痕跡は明確には看取できなかった。釣座の正面観は事例 1 のそれと相似しており、華美な装飾性はなく簡略化が進んだ結果と見なせよう。本体内面はかなり黒ずんでいるが、何らかの付着物が遺存したものかは明確でない。埋納前の用途を絞り込む上でも、より精緻な観察や、場合によっては何らかの理化学的分析を実施する必要があるかもしれない。

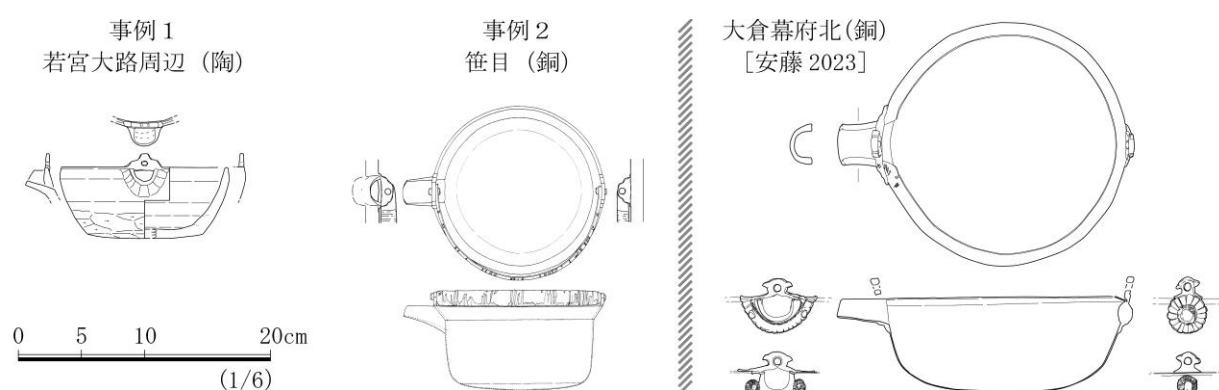


図 3 事例 1・2 と新出資料（右）

おわりに

以上、簡単だが提子 2 例について、追加実測図と観察所見を提示した。両例とも「銚子」の名称で報告されているものの、本来、酒器としての提子と銚子は異なる役割を担うことから、吊り手を有するタイプの容器は提子と呼ぶのが妥当と考える [前稿参照]。よって、本稿でも両例を提子として論を進めた。

前稿発表後、本体に別铸造の釣座を装着した銅製提子の新出資料が紹介された (図 3 右図) [安藤 2023]。本体・パーツを問わず、今後も提子・銚子ともに事例の増加が見込まれるが、その比較材料として、既出事例の集成と、個別分析の必要性が増して来よう。

事例 1 については、舶載陶器ではなく渥美など東海地方の窯産品であることを指摘したが、渥美窯産の提子であれば横浜市都筑区西ノ谷遺跡で陽刻蝶文をあしらった釣座を有する出土事例があり (図 4)、絵画文製品の多い大アラコ窯産の可能性が指摘されている。であれば、鎌倉より遡る 12 世紀代の陶器提子出土例として注目される。

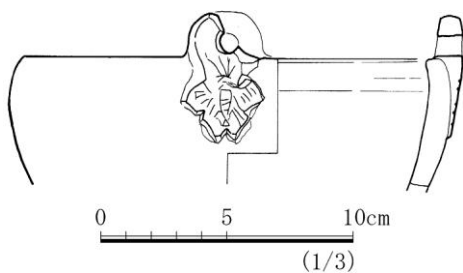


図4 横濱市西ノ谷遺跡出土の渥美窯産鉢（提子）

参考文献（刊行順）

松尾宣方 1983 「29 小町一丁目 65 番 10～12 所在遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』鎌倉市教育委員会

大河内 勉 1991 『笹目遺跡発掘調査報告書』笹目遺跡発掘調査団

坂本 彰ほか 1997 『西ノ谷遺跡』横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター

押木弘己 2022 「佐助ヶ谷遺跡出土の環状鉄製品と類例資料をめぐって」『かまくら考古』第 54 号 鎌倉考古学研究所

押木弘己 2023 「鎌倉出土の提子・銚子—環状金属製品の用途特定を受けて—」『文化財調査研究紀要』第 5 号 鎌倉市教育委員会

安藤龍馬 2023 「調査速報 大倉幕府北遺跡（鎌倉市 No.193 遺跡の発掘調査）『かまくら考古』第 57 号 鎌倉考古学研究所